

トータルインテリジェンスカンパニー実現へ向け邁進する

株式会社明新社 奈良県奈良市

昨年、創業 130 周年を迎えた老舗の印刷会社。130 周年を機に、社名を従来の明新印刷株式会社から株式会社明新社へと変更。新しいスタイルの印刷方法を提案して、自らトータルインテリジェンスカンパニーを標榜。

「+RGB (7色) 印刷」、「情報保護システム」、「セールスプロモーション」の3つを柱とし、社長の先見の明と積極果敢な行動で県内印刷業界を引っ張っている。

創業から現在まで、歴史ある 130 年

株式会社明新社は、約 130 年前の明治 7 年に奈良市橋本町 36 番地（現在の同社もちいどの店）にて創業し、印刷業を始めた。創業当時は、印刷業のほかに副業として度量衡（計量器・物差し）の製造販売も行ってた。そのため社名を「奈良明新社」としていた。

昭和 36 年に先代社長が大阪市上本町に大阪店を開設したが、その際に会社の名前からは、「いったい何を扱っている会社なのかわからない」、また社名に奈良が付いていることから、「大阪にたくさん印刷会社があるのにわざわざ奈良の会社へ発注しなくても」などと評される苦労があったという。

昭和 60 年になって印刷業に専念し、明新印刷株式会社へ社名を変更、業務拡大による本社事務所の増改築を行った。その後、奈良市南京終町（現在の本社地）に営業本部・工場を新築移転、資本金の増資、各種印刷システムの導入などで着実に成果を上げ、業容を拡大させていった。

昨今、印刷業界では機械化が進んでおり、もはや職人の技量によって品質の差別化を図ることが難しくなっている。逆に言うと、どの会社でも安定した品質で製品を供給できるようになり、印刷会社の独自性が薄れてきたということだ。したがって、今後、業界内で勝ち残っていくためには何らかの新たな方策が必要となってきた。

「今の IT 時代にあっては、紙にインキを載せるだけの時代ではない。印刷しかできないということが今後の事業展開に大きな足かせになる」（乾社長）と考え、130 周年を機に社名を株式会社明新社に再び変更し、印刷関連を総合的にプロデュースする施策を計画した。

会社概要



会社名：株式会社明新社
所在地：奈良市南京終町 3 丁目 464 番地
電話：0742-63-0661 (代)
FAX：0742-63-0660
設立：昭和10年（創業：明治7年）
代表者：代表取締役社長 乾 昌弘
資本金：3,000 万円
従業員：50 名
事業内容：総合印刷業

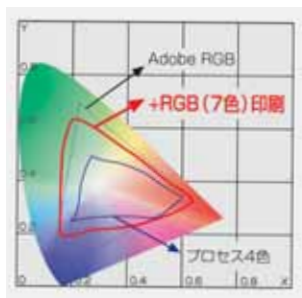


本社社屋

明新社、今後の3大施策

創業130周年にあたり同社は3つの施策を掲げている。

第一が、「+RGB（7色）印刷」のシステム開発である。従来のカラー印刷は、シアン・マゼンタ・イエロー・ブラック（CMYK）の4色の掛け合わせによって色を表現しているが、4色印刷ではおのずと限界があり、色を鮮明に表現できているとはいえない。そこで同社では独自の研究を重ねた結果、従来の4色にR（レッド）G（グリーン）B（ブルー）の「光の3原色」を加えた7色での印刷を導入した。これにより、これまで印刷が不可能であった色域を大幅に縮小でき、鮮やかな色の表現が可能となった。



表現可能色域

※青線枠内が従来の4色印刷で表現可能な色域、赤線枠内が+RGB（7色）印刷で表現可能な色域。

ただ、7色印刷のデータを作成するためには画像を変換するシステムが必要であるので、同社で独自にシステムを構築し、それを「明新プライマリーカラー（原色）システム」と名付けた。



明新プライマリーカラー（原色）システムによる画像の変換

この7色印刷のシステムを採用している企業は、奈良県内では初、全国でも数十社しかない。

システムの稼働により、今後、鮮明な色の表現が求められる相手先での需要が期待でき、すでに、美術館の図録に採用したいとのオファーが来ているという。

第二が「情報保護システム」の確立である。同社はプライバシーマークの認証を2005年2月に取得した。印刷業という性格上、企業から顧客情報を預かるケースが少なくない。クライアントが安心して依頼できるようにと、社内の情報保護システムを構築。プライバシーマークの認証取得は県内では2番目の取得。もちろん県内の業界では初。

最後が「セールスプロモーション」である。一般的に、「イベントが開催されるとそれに派生してポスターやチラシなどの需要が発生するが、これらの印刷だけではもはや時代遅れ。これからは、もっと川上の仕事をしなければ生き残れない」（乾社長）と考え、従来の印刷分野だけに留まらず、イベントの企画・制作・実施、映像制作、流通・店頭向け企画、消費者キャンペーン・ノベルティ企画等を総合的かつ立体的に行う体制を確立して、新しい領域への進出を開始している。

ただ、新分野への進出には人的ネットワークや技術・ノウハウなどの後ろ盾が必要となってくる。そこで、大手広告代理店の第一線で活躍していた人を顧問として迎え、その道のプロの指導のもと、着実に新しい領域への進出が図られている。

その手始めに同社の130周年式典は専門家への委託をせず、すべて自社の社員でプロデュースしたという。

おわりに

鮮明な色の表現、個人情報保護、セールスプロモーションという新たな方向性を示して走り出した明新社。いずれもタイムリーかつ重要な取り組みとして注目される。

トータルインテリジェンスカンパニーとしての今後の躍進が心待ちにされる。（丸尾、山城）